

会報 (第6号)

目次

- 日 ア 交 流
 - ・河野外相のア国訪問
 - ・第2次経済開発調査団（大来財団）の活動状況
 - ・日亜経済合同委員会の開催（お知らせ）
- アルゼンチン近況
 - ・政治・経済
 - ・アルゼンチンのパリ・クラブ債務繰延べ
- 現 地 便 り
- 文化行事のお知らせ
- 人 事 往 来



法人団
日本アルゼンチン協会

会報第六号 一九九四年十月三十日発行

発行人 薄井康透
編集人 渡部康透

千代田区内幸町一ノ二ノ二
日比谷ダイビル一七〇五号室
電話 (三五〇一) 四六八四番
FAX (三五九五) 三九三二番

日 ア 交 流

◎ 河野外相のア国訪問

河野外相は、9月2日、3日の両日アルゼンチン国政府公賓として接遇され、滞在中メネム大統領を表敬するとともに、ディ・テラ外相と会談した。国際情報及び二国間関係につき意見交換を行うと共に、昨年12月のメネム大統領訪日以降緊密化の方向にある両国関係を更に強化するため水産関係の定期協議及び政策対話を行うことに合意した。

ア国側より大来レポート（Ⅱ）をはじめとするわが国よりの協力につき謝意が表明され、又、両外相の間で環境円借款（レコンキスタ川流域衛生環境改善計画：81.5億円、IDBとの協調融資）供与及び文化無償（国立高等音楽院に対する楽器贈与：5千万

円) 供与に関して公文に署名が行われた。

河野外相は、ア国政府よりサン・マルティン勲章大十字章（これ迄皇太子殿下、総理等が叙勲）を授与された。

なお、河野外相の訪アは園田外相以来13年ぶり、待ちこがれた在ア日系団体代表及び日本商工会議所代表等と懇談し、在留邦人はもとより二国間の友好親善関係の増進につとめられ極めて有意義な訪問であったと了解される。

◎ 第2次経済開発調査団（大来財団）

(1) アルゼンチン国第2次経済開発調査

本調査は日本政府JICA（国際協力事業団）ベース開発調査団案件として実施の運びとなり、先ず本年度第1フェーズとして7月21日より10月6日迄（財）国際開発センター（IDCJ）河合三良会長を団長とする調査団によりア国並びに近隣諸国での調査が行われた。

本調査は“ア国と日本を含む東アジアとの経済関係強化の視点より選定されたサブセクターについてその産業発展と貿易・投資振興に必要な条件を分析・提言する”ことを主目的とし、今回はマクロ、投資／資本市場／産業金融、国際通商、貿易政策・制度、農牧水産、農業経済、工業開発、産業技術、鉱業エネルギー、物流 各分野の専門家約20名がカウンターパートたるア国経済・公共事業省（責任者：マジョラル貿易・投資庁次官）を通じア国官民の関係先（政府官庁、民間団体／企業／エコノミスト等）と折衝、さらにメルコスール構成国（ブラジル、ウルグアイ）並びにチリを訪問し幅広い調査を行い10月4日にプロGRESS・レポートを作成提出した。

引続き、11月に約1カ月にわたる東アジア諸国現地調査を実施、1995年3月にインテリムレポート（第1フェーズ報告）を作成・提出、サブセクター選定の上第2フェーズ（1995年4月－1996年3月）調査に入る予定。

(2) 大来財団セミナー

大来財団亜国本部（アルチュロン会長）はア国での第3回セミナーを下記の通り開催した。

日時／場所：10月3日／ロサリオ市、10月4日／ブエノス・アイレス市

テーマ：アルゼンチン－日本（第3回）－ア国と東アジアとの関係

司会：アルチュロン 大来財団会長（ブエノス・アイレス市）

講師：日本側 IDCJ 河合会長、トヨタ自動車（株） 富永取締役（ラ米担当）、
静岡県立大 小浜教授

ア国側 マジョラル経済省貿易・投資庁次官（ブエノス・アイレス市）
タカクス 大来財団副会長／セルロサ製紙会社社長（ロサリオ
市）

セミナーはトヨタ自動車のア国投資・進出等のトピックス効果もありロサリオ市
では約100名、ブエノス・アイレス市では約200名が参加、特にブエノス・アイレ
ス市においては小宅在ア日本大使並びに一時帰国中のサンチス・ムニョス在日ア国
大使をはじめ各界要人が参加され盛況であった。

（筆者：財団法人「国際開発センター」幹事 斉木茂治氏）

◎日亜経済合同委員会の開催（お知らせ）

第16回日亜経済合同委員会が、来る11月10日及び11日の両日ホテル・ニューオー
タニで概要次の日程で開催される。

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| 11月10日（木）09：30～10：15 | 開会式 |
| 10：30～12：00 | 第1回全体会議
「両国経済の現状と展望」 |
| 14：00～15：00 | 第2回全体会議 |
| | 1. 「日亜間貿易の現状と展望」 |
| | 2. 「亜国の産業基盤強化の現状と見通し」 |
| 15：30～17：45 | 第1分科会（貿易・運輸・金融） |
| ” ” | 第2分科会（投資・技術協力） |
| 11月11日（金）10：30～11：15 | 第3回全体会議 |
| | 1. 「自由貿易協定」 |
| | 2. 「メルコスールの進捗状況と同市場での経済活動」 |
| 11：30～12：15 | 閉会式 |

なお、日程の詳細について必要ある場合は日亜経済委員会事務局（日本商工会議所・
国際部内）に照会して下さい。

電話 03 - 3283 - 7531

アルゼンチン近況

◎ 政治・経済

◎ カバーロ経済大臣は1995年の経済見通しを以下の通り発表した。(7月)

消費者物価上昇率	3.5%
経済成長率	6.5%
輸出	17,422百万ドル
輸入	21,787百万ドル
貿易収支	▲4,365百万ドル
対米ドル為替相場	1 PESO

経済界では高失業率、貿易収支の赤字、資本流入の先細り懸念に対する政府の対応策を求める声強い。

◎ 1853年制定の現憲法の改正案が制憲議会で可決された(8月)。現職大統領の一回限りの再選を認める事項を含みメネム再選の道が開かれた。

重大な改正は次の通り。

- ① 大統領の再選を一回限り認める。任期は6年から4年に短縮する。
- ② 大統領選挙は間接選挙より直接選挙に改める。第1回投票で45%以上獲得するか、40%以上獲得し、第2位との差が10%以上の候補者がいない場合は上位2名による決戦投票を行なう。
- ③ 大統領候補者はカトリックである必要はない。
- ④ 上院議員の任期を9年から6年に短縮し2年ごとに3分の1の改選とする。
- ⑤ ブエノス・アイレス市長は政府任命を改め直接選挙により選出する。

◎ メネム大統領就任後2度目のゼネストが8月に実施された。前回92年11月と同様、政策への抗議を目的とするもの。

完全なゼネストからほど遠く、親メネム派の労働総同盟(CGT)から分離した交通運輸・教職員等の組合が主体であった。

◎ 94年1月以降の月間消費者物価上昇率は次に通り。(%)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
0.1	0.0	0.1	0.2	0.3	0.4	0.9	0.2

7月が0.9%と高い上昇率であるが内容を見ると余暇5.0%、食料1.0%が目立つ。

◎ カバーロ経済大臣による1995年の国家予算案の国会提出時に以下の経済指標が同時に公表された。(9月)

	93年実績	94年予想	95年目標
経済成長率 (%)	6.4	6.5	6.5
GDP (100万ドル)	255,326	282,859	311,644
インフレ率 (%)	7.4	4.0	3.0
輸出 (100万ドル)	13,108	18,369	17,422
輸入 (100万ドル)	16,784	23,675	21,787
貿易収支 (100万ドル)	▲ 3,676	▲ 5,306	▲ 4,365
対米ドル為替相場	1 : 1	1 : 1	1 : 1

◎ 94年1月から7月までの輸出入の動向は次の通りで、貿易収支は3,226百万ドルの赤字で前年同期の1,065百万ドルの赤字に対し2,164百万ドルの赤字拡大となっている。

(単位：100万ドル)

	輸 入		輸 出		収 支	
	93年	94年	93年	94年	93年	94年
1月	902	962	1,039	1,577	▲ 137	▲ 615
2月	910	954	898	1,495	12	▲ 541
3月	1,075	1,117	1,323	1,842	▲ 248	▲ 725
4月	1,079	1,200	1,207	1,708	▲ 128	▲ 508
5月	1,221	1,562	1,253	1,700	▲ 32	▲ 138
6月	1,278	1,406	1,410	1,804	▲ 132	▲ 398
7月	1,159	1,316	1,559	1,617	▲ 400	▲ 301
合計	7,624	8,517	8,689	11,743	▲ 1,065	▲ 3,226

◎ カバーロ経済大臣によれば94年下半期の資金必要調達額は1,400百万ドルであり次の方法での調達を予定している。

- ① 600百万ドル：GLOBAL BONEXなど外貨発行
- ② 400百万ドル：民営化による政府収入
- ③ 400百万ドル：短期政府証券の発行

短期政府証券は入札方式により低い金利を提示した応札者が落札することとなる。
8月から始められ9月末までの入札結果は次の通りである。

(単位：100万ドル／100万ペソ)

	応札金額		落札金額	
	ドル	ペソ	ドル	ペソ
第1回 (8月)			12.0 (6%)	15.0 (7.39%)
第2回 (8月)	104.5	154.7	13.0 (6%)	34.1 (7.38%)
第3回 (9月)	52.6	44.4	NIL	18.5 (7.38%)
第4回 (9月)	13.8	25.2	NIL	NIL
第5回 (9月)	21.8	19.6	10.7 (6.2%)	10.9 (7.5%)
第6回 (9月)	3.1	0.4	NIL	NIL

(カッコ内は最高金利)

(筆者：東京銀行理事 小林晋一郎氏)

◎ アルゼンチンのパリ・クラブ債務繰延べ

アルゼンチンはこれまで5回にわたりパリ・クラブ（註）における債務繰延べを行ってきたが、1994年6月15日付のカバロ経済相発パリ・クラブ議長宛書簡によりアルゼンチン政府は現在適用されている第5次債務繰延べ（95年3月31日まで）を最後に、今後は新たな債務繰延べ要請は行わない旨通知した。これにより、アルゼンチンは二国間の公的債務につき95年4月1日以降に発生する金利と返済期限の到来する元本をすべて期日通りに支払うこととなる。これは、これまでアルゼンチン政府が進めてきた経済政策の成果であり、中南米の債務国グループ（ブラジル1,165億ドル、メキシコ970億ドルなど）から、一歩抜けだして卒業することになり、同国経済への信頼をより一層高めるものとなる。

同国は、1992年3月には、IMFとの間で1995年3月までの拡大信用供与（EFF）につき合意している他、同92年12月には民間債権銀行団との間でブレイディー提案に基づく債務削減計画（いわゆるブレイディー・プラン）に合意している。

（註）パリ・クラブとは中南米諸国がIMF（国際通貨基金）よりの借入れ実行に当り関与を必要とした債権国会議。本会議の本部がパリに在ったためこの呼称がある。

現 地 便 り

◎ 街擦樹移植、フルスピードで

これはとある日のナシオン紙に出た記事の見出しです。現在当国ではパナメリカーナ、ヘネラルパスの拡張工事に絡み街路樹の移植が進められていますが、そこに一枚噛んでいるのがエスコパール在住の日本人。要は根の回りに藁を巻いて木を移植するという日本ではごく普通に植木職人が行う技術なのですが、そこは何でも日本のことをテクノロジーに溢れた不思議な国に結び付けたがる当国のこと、新聞でも『作業は順調にすすんでいる。木々の移植は日本の技術を以て今や日常的な事になっている』といった親しみを込めた内容で大きな写真と共に報道されています。何でもこの方は1本でも枯らしたら『ハラキリをする』と大見栄を切っているそう。これは亜国人の間で有名な話ですが、たまにはこういう無害な2国間の緊張関係が有っても良いものです。

◎ 日本の技術で命拾い

ある朝出勤途中、ペルグラノー地区で街路樹が日本車の上に倒れ掛かり、テレビ局も出勤するなどのちょっとした騒ぎが起きていました。クラリン紙に2頁見開きで出ている程の事件だったのですが、中が虚ろになった木が突然倒れ掛かり、車を押し潰した由。持ち主が『車のこう造物が耐えられたから良かったんだ、僕らは日本の技術で命拾いをしたんだ』とのコメントをしていました（記事では下線部強調体）。一寸見たところそれ程のおおごとかな、という感じの騒ぎでしたが、すぐにこういう発言が出てくるだけ人々も親日的ということなのでしょう。

（日本郵船ブエノス駐在員 秋山氏寄稿）

◎ タンゴの2巨星逝去

“ポラッゴ”の愛称で一世を風靡したタンゴ歌手ロベルト・ゴジエネチェ（68歳）が8月27日心臓疾患で逝去した。同人は、タンゴの黄金時代を築いたアニバル・トロイロがひきいる楽団で歌い、来日公演したこともある。

又、偶然にも同日タンゴ・ダンサー兼歌手として名声を博したベバ・ビダル（71歳）も急死した。

（らぶらた報知紙より）

文化行事のお知らせ

◎ サンチス大使公邸における懇親パーティー

サンチス大使は、さる7月26日夕、斎藤会長ほか当理事を大使公邸に招き、大使夫人、大使館スタッフを交えての懇親パーティーが催された。亜国産ヴィーノ、エンパナーダなど賞味しながら、なごやかな懇談が進んだ。

席上、斎藤会長は、亜国が来年4月からパリ・クラブを卒業するとの朗報を捉え、祝辞とともに乾杯の音頭をとり一同亜国のさらなる経済再建への期待と祝福の杯をあげ、盛会裡に終了した。

◎ 長田小学校・アルゼンチン共和国友好60周年記念コンサート

長田小学校（茨城県猿島郡境町）とアルゼンチン共和国との結びつきは、昭和10年モンテ・ネグロ駐日代理公使に対し、上小橋在住の野本作兵衛氏が、日本海海戦で活躍した軍艦2隻を亜国から譲渡された事に感激し、家宝の名刀を同公使へ寄贈したのを機縁に友情が結ばれた。同公使は長田小学校をしばしば訪れ、奨学金及び会館の設立等に資金協力し、爾来歴代の駐日亜国大使と60年間交流を重ねてきた経緯がある。

因に本年は友好60周年と野本氏の満100歳を祝って長田小学校PTA主催により、11月19日境町中央公民館において「アルゼンチン・タンゴの集い」を開催し、ドナート・ラシアッティ楽団が演奏する事になっており、サンチス駐日アルゼンチン大使及び当協会役員も出席予定である。

◎ ライブ・スポット（タンゴ）

11月24日（木）20：00 銀座“音楽館”

（JR又は銀座線新橋駅下車4分）

歌：小原みなみ（当協会会員）

連絡先：☎ 03 - 3572 - 8447（音楽館）

◎ チャリティ・ダンス・パーティの夕べ

12月3日(土) 18:00 六本木TSK CCCホール

(日比谷線六本木駅下車 4B出口2分・千代田線乃木坂駅下車 徒歩5分)

ドナート・ラシアッティ (バンドネオン奏者)

ネルソン・ピーノ (歌手)

他3名 (ピアノ、バンドネオン、バイオリン奏者)

会費 ¥15,000円 (軽食、飲物付) (当協会員は2割引)

連絡先: 日亜教育文化促進会 (アジャペック)

木田 寿司 (タンギート) 代表 (当協会員)

TEL 03-3791-1519 FAX 03-3791-1699

.....きりとり線.....

チャリティ・ダンス・パーティの夕べ割引 (20%) 券

平成6年12月3日(土) 18:00~21:00

六本木TSK CCCホール

当協会員及び同伴者5名様に限り お1人 ¥12,000円。

社団法人 日本アルゼンチン協会



.....きりとり線.....

◎ ノルベルト・ラモス、タンゴ五重奏団

12月9日(金) 18:30

小岩アーバン・プラザ

(JR小岩駅下車徒歩10分)

指揮ピアノ奏者: ノルベルト・ラモス

歌: 香坂 優

入場券 ¥4,000円 (全指定席)

連絡先: 東京江戸川タンゴ・クラブ

大橋 雄一 会長 (当協会員)

TEL 03-3650-3740

人 事 往 来

1. 訪 垂

河野外務大臣	9月2日～3日
千野忠男	大蔵省前財務官 8月22日～25日
池田 要	通産省通商政策審議官 9月21日～23日
畠山	通産省顧問（前審議官）10月21日～23日

2. 来 日

マジョラル経済省経済政策担当次官補	10月17日～21日
サンチェス経済省・投資庁長官	10月17日～21日
ゴンサレス外務省国際経済局長	10月17日～21日
ドミンゴ・カバロ経済大臣	11月9日～11日 (日亜経済合同委員会出席予定)
尾見和男	在亜日本商工会議所会頭（本年度総会にて新任） (東銀ブエノス・アイレス支店長) (日亜経済合同委員会出席)
白鹿敦巳	在亜日本商工会議所第一副会頭（亜国三井物産社長） (日亜経済合同委員会出席)
加藤勝己	在亜日本商工会議所第二副会頭（亜国三菱取締役社長） (日亜経済合同委員会出席)
大木 裕	新任の社団法人在亜日系団体連合会会長（辻陶器取締役） 10月19日～11月13日 滞在中の連絡先：03 - 3508 - 8425（実兄の大木浩参議院議員事務所）

あ と が き

次号（第7号）は明年1月下旬発行予定。

なお、ア国歴史にご造詣の深いサンチス大使が取り纏められた「ア国から見たア日友好交流一世紀の足跡」を新年に当たっての特集として掲載する予定です。（了）